

関西安全・安心を支える科学技術推進会議

～少子高齢化社会に向けて～

平成23年5月

財団法人 大阪科学技術センター

【関西安全・安心を支える科学技術推進会議設置の趣旨】

近年、重大事故・事件や食・住をめぐる問題の多発、環境問題の先鋭化、そして情報セキュリティ問題の増大等、ますます国民の安全・安心を脅かす危険や脅威が顕在化してきております。

身近なところでは、高齢者や児童の日常生活での事故や児童の誘拐事件、独居高齢者の孤独死の増加が社会問題化するとともに、生命・身体を脅かす製品の深刻な不具合の増加とこれらの不具合の増加に伴う製品全般への信頼感の低下があげられます。

今後、急速な少子高齢化社会を迎えるあたり、独居高齢者の急激な増加やこれまでの高品質な生産を支えてきた熟練技術者の減少が想定されるなど、国民の安全・安心を脅かす危険や脅威がますます増加すると懸念されており、その解決策としての科学技術への期待は大きなものがあります。

これらの社会の安全・安心を確保することは国民全体に係わることから、国においても「第3期科学技術基本計画」で、世界一安全な国・日本を実現し、国民生活に安心と活力を提供するとの政策目標を掲げ、研究開発強化への取り組みがすでに始まっております。

一方、これまでも個々の企業では既に安全・安心について様々な取り組みがなされているところではありますが、安全・安心を確保していくためには専門化・細分化されている知を、自然科学領域のみならず人文・社会科学領域も含めて、横断的に統合しつつ進めていくことが肝要となります。

このためには、安全・安心に関わる研究開発に対する産学官連携の重要性は言うまでもなく、具体的には、大学および基礎研究機関の技術シーズと社会・産業界のニーズとのマッチングや、異分野間のコラボレーションが図れる場の提供を含む、体制の整備、仕組み作りがかかせません。

当財団では、安全を脅かす脅威から国民生活を守っていくための科学技術を「安全・安心を支える科学技術」として位置づけ、平成19年6月に、産学官による分野横断的な組織として「関西安全・安心を支える科学技術推進会議」を設置し、少子高齢化をキーワードとして、関西における安全・安心を支える科学技術の研究開発と産業化への取り組み及び安全文化の構築を強化・推進するための活動を行っております。

この会議では、

- 安全・安心を支える科学技術に関わる分野横断的な研究コミュニティの形成
- 安全・安心を支える科学技術に関わる技術情報のアセスメント
- 重要研究テーマの抽出と研究開発プロジェクトの企画・立案・実施
- 関係各方面への提言・普及活動

により、新技術の開発や新産業の創出、安全文化の構築、研究開発プロジェクトの提案を図って参ります。

少子高齢化

子どもの減少
人口減少／高齢者の増加
労働者(熟練労働者)の減少

＜目的＞

安全・安心を支える
科学技術の研究開発と産業化の強化・推進
安全文化の構築強化・推進

関西安全・安心を支える科学技術推進会議

産学官連携
技術シーズと社会・産業界ニーズのマッチング
異分野間コラボレーション等

「安全・安心を支える科学技術」推進の取り組み強化のための
関西における体制整備
－自然科学領域と人文・社会科学領域の分野横断・統合的取り組み－

＜関西のポテンシャル＞

- ・多種多様な産業群の重層的集積
- ・高い技術力・製品開発力を持つ企業の集積
- ・多様な分野の数多くの大学・公的研究機関の集積
- ・厳しい消費者の目
- ・多種多様な都市と郊外
- ・阪神・淡路大震災などによる安全・安心意識の土壌等

第3期科学技術基本計画
＜科学技術政策の大目標＞

- ①飛躍知の発見・発明
- ②科学技術の限界突破
- ③環境と経済の両立
- ④イノベーター日本
- ⑤生涯はつらつ生活
- ⑥安全が誇りとなる国

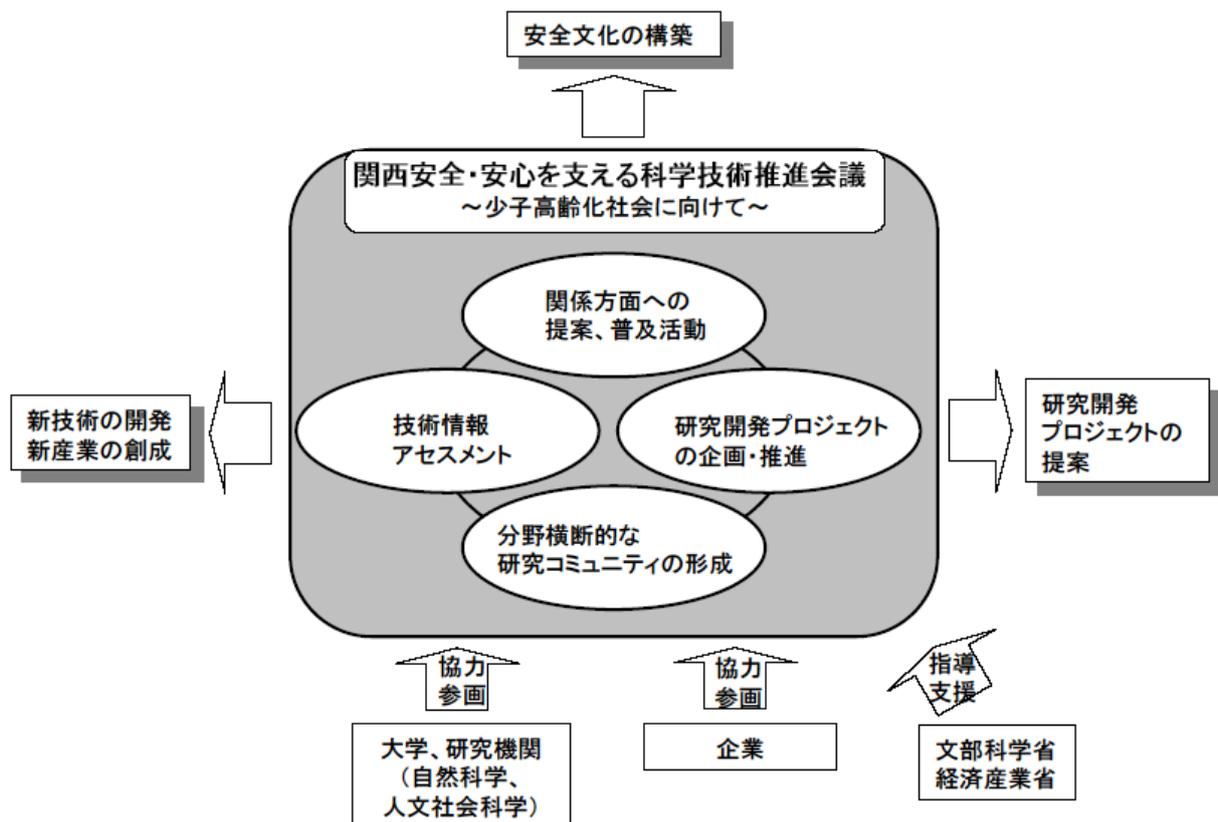
＜安全・安心科学技術の取組領域＞

重大事故
新興・再興感染症
大規模災害
食品安全問題
情報セキュリティ
テロリズム
各種犯罪
科学技術信頼性の強化

関西安全・安心を支える科学技術推進会議活動趣旨

【推進会議の活動内容】

- 安全・安心を支える科学技術に関わる分野横断的な研究コミュニティの形成
 - ・安全・安心を支える科学技術に関わる講演会・産学官交流会の開催等、多面的な情報交流による分野横断的な研究コミュニティを形成する。
- 安全・安心を支える科学技術に関わる技術情報のアセスメント
 - ・安全・安心を支える科学技術に関わる最新の技術動向および産業動向、国の施策等の情報収集・評価・整備を行う。
- 安全・安心を支える科学技術に関わる多様な研究開発プロジェクトの企画・推進
 - ・産学官の研究シーズ／技術ニーズを融合させた共同研究プロジェクトを企画・推進する。
 - ・文部科学省・経済産業省等国の研究開発制度の活用を促進する。
- 関係各方面への提言・普及活動
 - ・関西地域の安全・安心及び関連分野に関わる産学官の関係研究機関等の連携による研究推進ネットワークの構築及び、安全文化の構築に向けた提案を行う。



関西安全・安心を支える科学技術推進会議活動スキーム

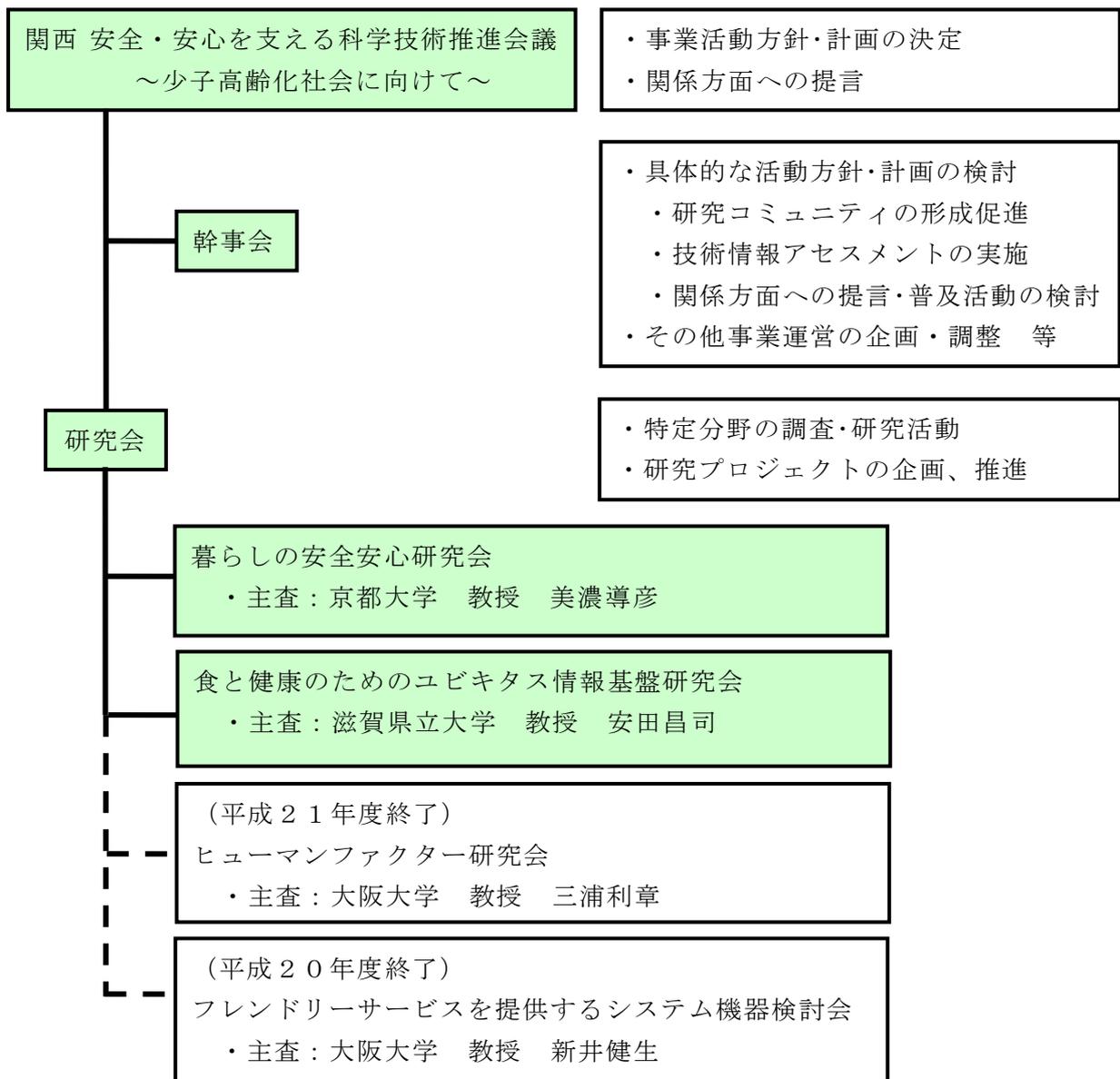
【推進体制】

(1) 本推進会議は、産・学・官のメンバーにて構成する。

〔 委員長：(財)大阪科学技術センター会長 齊藤紀彦 (関西電力(株)副社長)
 顧問：大阪大学総長 鷺田 清一
 京都大学総長 松本 紘 〕

(2) 本推進会議の企画運営等を行う幹事会を設け、活動を円滑に推進する。

(3) 必要に応じて特定の課題について、共同研究、国家プロジェクトへの提案等の企画立案、組織化を図るために研究会・ワーキンググループ等を設置する。



■ (ニーズによりさらに検討いたします)

◆暮らしの安全安心研究会

家庭、街角など「暮らし」における人間活動を安心安全の側面からどう支援するかという視点から、カメラ、センサ等による情報基盤のあり方と見守りサービス、危機管理サービス等についてサービスサイエンスとの関連も含め調査・研究を行う。

主 査：美濃 導彦 京都大学 学術情報メディアセンター長 教授

学識委員：馬場口 登 大阪大学大学院 工学研究科 教授

奥野 卓司 関西学院大学大学院 工学研究科 教授

富田 英典 関西大学 社会学部 教授

上田 博唯 京都産業大学 コンピュータ理工学部 教授

角所 考 関西学院大学 理工学部 教授

村瀬 敬子 佛教大学 社会学部 講師

藤本 憲一 武庫川女子大学 生活環境学部 教授

鱒坂 恒夫 和歌山大学 システム工学部 教授

◆食と健康のためのユビキタス情報基盤研究会

生活者が安心して安全で高品質の生活を楽しめるように、食と健康のための情報を自動収集・選別し、健康状態の計測データと組み合わせて持続的に管理し、日常生活のいろいろなシーンで推薦することのできる端末を実現するための統合的な情報基盤技術について調査・研究を行う。

主 査：安田 昌司 滋賀県立大学 地域産業連携センター 教授

顧 問：西田 豊明 京都大学大学院 情報科学研究科 教授

学識委員：中川 晶 大阪産業大学 人間環境学部 教授

塚本 昌彦 神戸大学大学院 工学研究科 教授

金田 重郎 同志社大学 理工学部 教授

曲山 幸生 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所
食品工学研究領域 上席研究員

国分 友邦 (独)産業技術総合研究所 健康工学研究センター長

【活動期間】

平成19年4月～平成24年3月

【参加費】

関西安全・安心を支える科学技術推進会議への参加は無料です。ただし、個別の研究会活動への参加につきましては有料といたします。

【お問い合わせ先】

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4

財団法人大阪科学技術センター

技術振興部

松久・澤坂・米田

